

審議会等会議録

審議会等の名称	令和 6 年度第 3 回山口市子ども・子育て会議
開催日時	令和 6 年 1 1 月 2 8 日（木曜日） 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 3 0
開催場所	山口市役所 A 会議室
公開・部分公開の 区分	公開
出席者	白石敏行委員、大田紀子委員、松尾憲正委員、南律子委員、土井知恵委員、 上野敦子委員、江頭真木委員、右田俊博委員、伊藤祐子委員、縄田佳子委員、 宮成真澄委員、水津寛委員、児玉頼幸委員（ 1 3 人）
欠席者	横山順一委員、藤井武明委員、萩嶺貴恒委員、宮原大地委員、佐藤光恵委員、 北條榮太郎委員、村上竜司委員、渡辺和彦委員、大隈進委員、神田真衣委員、 久富祥子委員、山縣昂亮委員
事務局	こども未来部長、こども未来部次長、こども未来課長、保育幼稚園課長、子育て 保健課長、教育総務課長、学校教育課児童生徒安心支援室主幹、社会教育課長、 こども未来課総務担当主幹、こども未来課子育て応援担当主幹、こども未来課 手当給付担当主幹、保育幼稚園課管理担当主幹、保育幼稚園課認定給付担当主幹、 保育幼稚園課施設担当主幹、子育て保健課家庭児童相談室室長、子育て保健課 母子健康サポート担当主幹 2 人（ 1 7 人）
議題	1 第二期山口市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について 2 「(仮称) 山口市こども計画」素案について
内容	次第に沿って以下のとおり進められた。 【こども未来部長挨拶】 (事務局) 配布資料の確認 【会長挨拶】 【議題 1】 (会長) 議題 1 第二期山口市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について事務局 の説明を求める。 (事務局) 資料に基づき説明 以下、各委員及び事務局の発言要旨

(委員)

今御説明の最後の資料2の2指標の状況についてということで、高校進学、大学進学、それについては、母数は少ないけど、1人2人変わって、指標が変わったなと思っております。差し支えなければ、高校進学率、大学進学率の母数と実数を教えていただきたい。大学進学率も余り知られてないですけど、全国的に山口県自体が、大学進学率が下から3番目か4番目で、理由は分からないんですけど、そういうところもあるのかなと。

(事務局)

担当課でございます地域福祉課に確認しましたところ、高等学校進学率、こちらにつきましては、これは令和4年度に中学3年生だった、生活保護世帯の生徒さんが、翌年度の5年4月にどうだったかという数値となっております。担当課に確認しましたところ、対象生徒さんが6名、高校進学されたのは3名。よって、進学率が50パーセントとなっております。この分母が少ない中で、年度末に市外に転出されたり、保護が適用外になったりと、かなり分母が下がったというところは伺っております。No.3の生活保護世帯に属する子どもの大学等進学率、こちらについては、実数が把握はできていないのですが、担当課の話ですと、この年については進学より就職される方が多かったというふうに聞き取っております。以上です。

(委員)

資料2の事業計画、30ページの子どもの居場所づくり推進事業、具体的にどういうものがあるのか教えてください。

(事務局)

各地域21地域交流センターの方で、夏休み講座をやったり、ある地域は毎月、子どもの体験活動を行ったり、体験を通した活動をやったりしております。今、手元に詳しい資料がなくて、申し訳ございません。

(委員)

資料2の2ですけど、小学生は数値が上がっていますが、中学3年生が徐々に下がってきているのはどういうことなのか。今、自己肯定感が低い子どもさんが多く、気になっているのですが。

(事務局)

はい、確かに中学生が少し、年齢が上がると思春期っていうのもありまして、そういうところで、若干、小学生よりも、この質問に対して、数値が下がっているという状況ではございます。ですが、その自己肯定感を高めることができるよ

うに、今、昨年度より、小中一貫教育を進めておりまして、小中が同じ目標に向かって、一貫した教育をすることで、中1ギャップとか、中学1年生になっても、不登校とかを解消できるように進めているところです。また、地域の方にも学校に入っていて、いろんな方から、生徒に声をかけていただく中で、このあたりの自己肯定感を高めていこうと取り組んでいるところでございます。

(委員)

うちは鴻南地区になるんですが、大歳小学校、鴻南中学校も連携してずっとやりましょうということで、好きです大歳、好きです鴻南っていうスローガンも掲げてずっとやっていますし、小学校の方は地域の方を呼んで、地域の話や歴史を聞いたり、いいところを探したりとか、いろんなワークショップみたいな形で、時間が違うんですけど、かなりの回数、開催されてまして、自分の地区を自慢するわけではないんですけど、大歳地区の子どもたちは割合落ち着いて、健やかに育っているのかなっていう感じがしてるんですけども、こういう中学受験、高校受験とかいろいろあると大変だと思うんですけど、やっぱりその乗り越えていく力をつけていくっていう難しい問題だと思う。物とか施設とかの対応を具体的に考えるのも大切ですけど、精神面をどうやってサポートしていくのかって、活動しながら思うんですけど。やっぱり家庭教育の欠落っていうか、親自身が全然育ってない感じが最近あって、子どもが子どもを育てているような変な感覚で、とても不安なんですけど、ここをどうやっていったらいいのかって悩んでいて。その辺も一緒に考えていただけたらいいなと思います。

(委員)

資料2の29ページで、子どもの笑顔づくり推進事業、年々不登校の問題があります。山口市内の現状、どういうふうに把握しているのか教えていただければと思います。

(事務局)

いじめ、不登校の問題につきましては年1回、全国の問題行動調査というのを実施しておりまして、こちらで把握しているところです。現状といたしましては、まず、不登校については、全国と同様に、本市においても、小学校、中学校ともに増加傾向にある状況にございます。いじめにつきましては、コロナ禍を境にちょっと減りまして、令和2年からは、減っている状況で、今は小学校が100程度、中学校については50程度の横ばいの状況が続いているところでございます。いじめにつきましては教育委員会のほうに、いじめ発生時には、いじめ速報カードというものを提出し、それを見て、学校の対応等、確認をしまして、必要に応じて、ここに書いてありますように、いじめ初動サポーター等を派遣して、助言、支援のほうを行っているところでございます。以上でございます。

【議題 2】

(会長)

議題 2 「(仮称) 山口市こども計画」素案について事務局の説明を求める。

(事務局)

資料に基づき説明

以下、各委員及び事務局の発言要旨

(委員)

第一に子どもの権利条約。子どもの人権を守らなきゃいけない、その保護しなければならないのは当然分かるんですけど、それを言うのであれば受ける側のしなければならない責任と義務っていうのが、どこにもないんですよね。すごくそれが気になっています。ある程度そういう自覚がないと、もう終わったら何でもいい、自分が言いたいことなんでも言ってもいい、小学校の先生に時々聞くんですけど、一生懸命やるとお母さんからクレームがくる。でも子どもの教育のために先生としてはしているのに、今、保護者の学歴も上がってきて、先生が、自分の動向が自分以下みたいな物の言い方をされる保護者の方が多くて、先生が非常にやりにくいということを言われました。先生たちだって、一応プロですからそういう勉強をしていると思うんですけども、親は、子どもを先生からある意味育ててもらっているのに、そこに対する感謝ではなくて文句ばかり言って、これ、保護者としての責任とか義務がどこか抜けているんじゃないかなと。それと、ワークライフバランス。これが女性に働け働けて、働きたかったらどうぞ働いてっていう政策だと思うんですけど、母親クラブとして、いろんなところに行って託児をさせてもらってます。お母さんに勉強に集中してもらえるように、勉強している間、子どもさんを見て、すごく気になるのは、お母さんたちがお仕事やら何やらで外にあまりにも関心を向け過ぎて、幼児期の1番大事な時期に、子どもときちんと向き合う余裕がないのか、ほとんどお仕事をしていないような感じの人が来て勉強することが多いんですけど、子どもさんに手をかけなさすぎるのではないかなと。昔は布おむつだったので、早く外したいっていうのがあったんですけども、1歳前後で大体、無理して外していたと思うんですけど、今は3歳4歳でも平気でおむつをしています。おしっこ言えないんです。ちょっとおかしい。うちの娘も、保育士やって、幼稚園に勤めているんですけど、入園して、おむつが外れてないので、夏休みまでになんとかおむつ外しができる状態にもっていくんですが、夏休みに入ると、また元に戻ってスタートからおむつ外しをしないといけない。一つの例えですけど、密着した親子関係が今何でもインスタントにできるようになっ

てしまって、親と愛着が作れてないから、その辺でお母さんを求める、お父さんを求める子どもが寂しがっているのではないかな。そこで、親子がきちんと向き合える時間をどういうふうに提供するか、それから、親自身に子どもを育てる義務と責任があるという、そこが今すごく抜けているような気がしています。私は自慢ではないですけど7人子どもを育てまして、小学校までは、行儀作法から日頃の遊びから口出して、一人前にするまでは口出すぞと思ってたんですけど、中学校からはもう子どもに全て、責任を持って自分で行動して駄目になっても、結果は責任をとってもらおうという形で、一切口を出さないように教育、子育てしたんですけど、もう口を出さないのが苦しいんですよ。でも、今のお母さんは、幼稚園でもその下でもあれしなさい、これしなさい、あれしちゃ駄目でしょう。何しなさい、全部指示して、だからもう自分の思いどおりになるロボットぐらい。今の子どもは、そういう意味で寂しいけど縛られていて、自分自身も見られないとか、それがいろんな不登校とか、いじめとか、そういうものに出てくる可能性もあると思います。すいません、まとまりがなくなってしまったんですが。

(委員)

主任児童委員やっています立場からいろいろな子育ての場所に顔を出すことがあって、そこでお母さんたちの様子を見る人が多いんですけど、昨日も子育て広場に行ったんです。ワンオペのお母さんで、スタッフの話に全然聞く耳を持たない。完璧にもう自分の考えしか見えない、そういう人を助けてあげられないかなと、現場を見て思いました。3歳になって保育園に入ったらいいんだけど、それまではお母さんからほかの人に助けてもらうとか、人の意見を聞くとかできない人ではないかなと。そういう支援計画がこども計画の中にはないかもしれないけど、やっぱり人的な助けも必要になるんだなあというのは、現場として思っております。

(委員)

ある意味施設に入れるお子さん、お母さんも救われると思うんですけど、それが生まれてから、もしかしたら生まれるところでも、ちょっと不安を感じたりする人もいるのかなと思うんですけど、そういうお母さんたちが来られる場所としてありますので、それぞれのスタッフが知恵を出し合って、地域独特の活動をされていると思うんですが、スタッフは精力的にやるんですけど、欲しいところに手が届かないのかな。来ていただければ、幾らでもお話もできるし、結局足が出ない方をどうするのかなっていうところを、いつもスタッフがしております。だから、あの手この手でいろんなやり方をしていると思います。それと、やっぱり子ども誰でも通園制度の話、今ある支援センターとか、保育園で一時預かりとか、そういうところをしっかりと充実させることも大事なのか

な。支援センターもすごく職員抱えていますけど、園から持ち出しをしていて、そこをもっとしっかり保障していただければもっと行けるのかなと思ったりはします。それは、うちだけに限らず市内のどこの先生たちも言われています。誰でも通園制度がまだ形になっていませんので、ほかの保育園併設でないところの先生たちも、自分たちが何かすることになるのかなというふうにもいろいろ言われてますので、そこは少しでも形っていうのが見えてきたら教えていただきたいなと思っています。

(委員)

先ほどから話を聞いていて、時代が変わってきているな、とやはり痛感しております。今85ページの放課後児童クラブの表を見ると、令和11年でも実数は変わっていない。ただ山口市は、預かりが18時までで、他市ですと18時半から19時とかいうところもあります。県外はまた時間が長かったり、時間が延びれば延びるほど利用率は高まると思うんですよ。18時だから預けないで、他へ預けるっていう人がいると思うんです。質問なんですけど、いずれこの時間帯が延びる可能性は、あるのかどうかお聞きしたいです。延びるのであれば、これは数値がもっと延びるのではないかなと思います。

(事務局)

放課後児童クラブの終わりの時間の御質問について、回答させていただきます。今、おっしゃっていただきましたように、山口市では18時までで終わりにしますということですが、しかし、県内も見ますと、18時半から19時というような状況でございます。こうした状況につきまして山口市としても課題としては認識をさせていただいたところでございまして、2年ぐらい前に、学級にも、保護者にもアンケートをさせていただいている状況でございます。保護者の利用ニーズがある一方で、学級にもいろいろ状況がございます中で、支援員さんが十分は確保できないということも踏まえまして、時間の延長ができるかどうか、今、まだ検討させていただいているという状況でございます。

(委員)

他市に行きましても山口市の支援はすごく安いというのは、よく言われます。施設が足りないときには、施設も建てていただいているし、こども未来課の方にもものすごくお世話になって助かっているんです。ただ、自分たちの現状を言うと、学校の施設を借りてやっているから、いいねって言われるんです。今、県がやってる架け橋プラン、幼稚園と小学校のプログラムをやるため、年長さん、小学生の架け橋プログラムを今されてるところだと思うように、あそこの中にいっぱいある小学校6年から中学生までのかけ橋プランもギャップがあるから、そこに貢献するためにそれをされると思うので、そうなってくれば、やはり今、学校とか

地域とか、さっき言われたような民生委員さんとか、皆さんの力、学校の山口市の教育ネットとか、いろんな家庭教育支援をされているので、何かばらばらになっ
ていて、そういう支援があるけど、一人一人や団体がばらばらでやっているから、もう少し一つになって協力ができて、学校、児童クラブと連携する。学校も地域と連携するという、今の教育ネットプランがもう少し大きく拡大していけば、すごく住みやすい山口市になるのではないかなと。

(委員)

今回の計画は、貧困とか、ひとり親家庭とかいろいろな計画がまとまって、ちょっとボリュームが、一つ一つの取組が減ったのかなと正直思いました。それで例えば、ひとり親家庭の支援で、養育費について自治体によっては、想定される金額を差し押さえる手続きができるようになるとか、割と法的な面でも踏み込んだものもありますし、実際、養育費が受け取れれば、生活状況も改善される。明石市のように立て替えとかまではできないかもしれませんが、そういった啓発も含め、いろいろ面会交流とかいう問題もあるんですけど、そういう形で、ある程度、今後ぜひ養育費の支援があるといいかなと思いました。それと子ども若者への支援ということがありますが、自殺対策とかも書いてあって、中学校ぐらいまでは学校があって、ある程度守られるし、高校になったら中退することもある。ですが、実家のほうでそういう支える力がなかったりして高校卒業しても、就職が難しい部分を支えるのが子ども若者の自立支援かなと。もっといろいろ課題があるんですけど。ここでは不登校や自殺対策の子ども若者への支援がありますが、もっといろんな、家がないとか、家で親と折り合いが悪い子とか、そういう子どもたちへの自立を少し支えることで、本当の自立に結び付く、本当にそれは直接行政ができるものではなかったような民間団体とかも、自立に向かっていくところでのサポートとかが、すごく大事だと思うので、そこでちょっと応援するだけで本当に自立になっていくし、そういう姿勢を示しますよと。それと、いろいろ子育ての経済的な支援、高校生まで医療費無償化、すごいなと思いましたが、他市でも結構あって、だんだんレベルが上がってくる部分もある。例えば給食費、保育料とか、そちらの方とか、困窮家庭に免除という制度はもうあるんですけど、いわゆる公が、社会が子どもを育てる、子育てをするという意味では、収入がある方も税金を払っていらっしゃるの、一律で、無償化というのが、ある意味シンボリックだけではなくて、やはりこの基本的な行政に対する姿勢を示すのか。当然費用もかかりますし、今103万の壁とか財源問題もあるので、厳しいところはあると思いますが、そういうことで、全体的なことができたらいいのかな。そういった形での支援ができたらいいのかなと思いました。

(会長)

	終了時刻が近づいてまいりました。まだ御意見等、お伝えしたいということがありましたら、資料4に連絡先が書いてありますので、メール等でお伝えいただければと思います。よろしければ、議事を終了させていただきます。皆様、御協力ありがとうございました。ここからは進行を事務局にお返しします。 【その他】 (会長) その他について事務局の説明を求める。 (事務局) 山口市子ども・子育て会議設置条例第6条第3項の規定に基づき、委員の過半数が出席していることから、会議が成立している旨を報告 (事務局) 次回会議の日程調整について説明 (事務局) 閉会の辞 以上にて、第3回山口市子ども・子育て会議閉会
会議資料	1 令和6年度第3回山口市子ども・子育て会議次第 2 令和6年度第3回山口市子ども・子育て会議席次表 3 山口市子ども・子育て会議委員名簿 4 山口市子ども・子育て会議 出席職員名簿 5 [資料1] 山口市子ども・子育て会議設置条例 6 [資料2] 第二期山口市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について(報告) 7 [資料2-2] 山口市子どもの貧困対策推進計画に係る指標の状況 8 [資料3] 「(仮称) 山口市こども計画」素案について 9 [資料3-2] 「(仮称) 山口市こども計画」素案(差し替え) 10 [資料4] 令和6年度第4回山口市子ども・子育て会議の開催について
問い合わせ先	こども未来部こども未来課 総務担当 TEL 083-934-4138